

東北自動車道 蓮田SA(上り線)防災拠点の概要

東日本大震災発災時に高速道路の休憩施設は、自衛隊や消防、医療機関などが被災地に向かう拠点として活用されました。その経験と課題を踏まえ、緊急出動機関などとともに休憩施設に必要な機能や活用方法を検討し、休憩施設の防災拠点化に着手しました。

防災拠点化した高速道路の休憩施設は、首都直下地震などの大規模な広域災害が発生した際に自衛隊や消防、医療機関など緊急出動機関の前線基地として場所(エリア)を提供し、被災地支援の進出拠点としての役割を担います。また、被災地の救援・救護活動を効果的に行うために緊急出動機関が情報共有する場所としても活用します。

そのため、商業施設建物の耐震性を強化し、フードコートの一部スペースには、電源や Wi-Fi を備えた共同災害対策室として各機関が進出拠点の指揮所などに活用できる設備を整えているほか、停電・断水対策として自家発電設備・井戸を整備しています。このほか、一般道への出入りを可能とする緊急開口部やヘリポートを整備して緊急出動機関の活動を支援します。

(主な防災機能)

設 備	内 容
共同災害対策室	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急出動機関の指揮所や各出動機関間の情報連携などに活用 (平時はフードコートとして使用) ・建物の耐震性は大規模地震発生後においても継続して使用可能な耐震性を確保 ・停電時にも使用可能な電源や通信用 Wi-Fi を完備
自家発電設備	<ul style="list-style-type: none"> ・停電時に照明、トイレ機能などの電源を確保 (連続運転可能時間: 72 時間)
井戸	<ul style="list-style-type: none"> ・断水時にトイレの洗浄水として使用
防災倉庫	<ul style="list-style-type: none"> ・規制材や飲料水などを備蓄
緊急開口部	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両の出入り口を確保
ヘリポート	<ul style="list-style-type: none"> ・中型機の離着陸が可能(夜間照明設備有)

NEXCO東日本では、休憩施設の防災拠点の整備とともに、関係機関との検討会や防災訓練などを重ね、災害発生時における対応能力の向上に努めてまいります。

○蓮田SA(上り線)防災拠点の防災機能



○フードコートを活用した共同災害対策室の活用イメージ(守谷SAでの防災拠点訓練)

